

卒業 くぼくは君だよ

作 宝井 直人

登場人物 廣田 和也

謎の人物

和也の母

不思議な声（以下、「声」と称す）（少年のような曇りのない声質）

(和也の部屋にて、和也ほんの少し満足気に登場して寛ぐ)
和也 ふー

(どこからか、少年のような不思議な声が聞こえてくる)

声 ここにいたんだね。もう一人のぼく

和也 え！

声 ……間に合ってよかった

和也 え！なに、だれ

声 ……僕は君だよ

和也 え！

声 いや、あの時は君だったというべきか

和也 え！だ、だれ！

声 君に伝えなければならぬことがある

和也 だれ！どこにいるの

声 ……僕はここだよ

(舞台眩しくなり、謎の男が登場する)

和也 うっ(めを隠す。そして……)

声 ……僕は君だよ

和也 ……だれ？

謎の男 僕は君だよ

和也 ……誰ですかあんた！

謎の男 ……僕は君だよ

和也 え？ちよ、え？さつきと全然、誰ですか！

謎の男 僕は君だよ

和也 (ヤバイやつが来て殺されると思い) やばいやばい、母さん！父さん！！助けて！変な人が！

謎の男 無駄だよ

和也 母さん！父さん！ねえってば！

謎の男 無駄なんだ、だから落ち着いて

和也 うわああ！ち、近寄るな！ぶ、ぶっ飛ばすぞ！おおお、お前は誰なんだ！

謎の男 僕は君だよ。

和也 はあ？？

謎の男 そう、僕は君であり、君から繋がるもう一人の君なんだ。いや、あの時は君だったというべきか…

和也 ……もしかして、未来の……ぼく？

謎の男 ……違うよ

和也 え、そしたら……過去から来た……ぼくのご先祖？

謎の男 ……違うよ

和也　じゃあ、あの、別の世界線のぼく？

謎の男　・・・違うよ

和也　じゃあ、封印された魂が僕という器に宿って目覚めた存在の、もう一人の僕？

謎の男　・・・違うよ

和也　むっずくく！！めちやくちやむっずつ！全然当たらんじゃん！え、誰なんですか？

謎の男　だから僕は君なんだ

和也　はあ？じゃあドラえもんのセワシ君的な

謎の男　違うよ

和也　違う！？違うか？違うもんねー！えー？他そんな設定あったっけ？？

謎の男　僕は君なんだ

和也　いや／＼その／＼知っている漫画とか映画とかの設定じゃないからなくえ、ほんと誰なんです？

謎の男　だから僕は君だよ

和也　じゃあ僕の守護霊？

謎の男　違うよ

和也　これしか言わないんだよなくもう帰ってもらっていいですか？
（触ろうとすると、「バチッ」と不思議な力で跳ね返される）

和也　うわ！な、なんだこれ！ちよ、もう、ホントにあなた誰なんですか？

謎の男　寂しいことを言うんだね・・・君がさつき捨ててきたじゃないか

和也　は？捨てた？

謎の男 僕は君がさつき捨ててきた・・・「童貞」だよ

和也 童貞！？？

謎の男 そうだよ。実は君に大事な

和也 (遮るように) ちよちよちよ、ちよつとまって！え！「童貞の擬人化」！？？いやいや聞いた事ない！

そんな擬人化聞いた事ないよ！え、え、

謎の男 落ち着いて、もう一人の僕。君に大事なことを伝えるために僕はきたんだ。それを手紙に書いてきた

(手紙を取り出す)

和也 え？え？手紙？

(アンジェラアキ「手紙」挿啓15の君へ)のオルゴール ver. が流れる。謎の男、手紙を読む)

謎の男 挿啓、「僕の君へ」。初めまして。(視線を手紙から和也に向け再度)「初めまして」(再び視線を手紙に戻す)

早いもので今年も師走となり、炬燵が恋しくなる季節になりました。さて

和也 えちよちよちよちよ、え？なに？手紙？

謎の男 うん。手紙

和也 手紙

謎の男 いいかな？

和也 は、はい

(アンジェラアキ「手紙」挿啓15の君へ)のオルゴール ver. が流れる。謎の男、手紙を読む)

謎の男 挿啓、「僕の君へ」。初めまして。(視線を手紙から和也に向け再度)「初めまして」(再び視線を手紙に戻す)

早いもので今年も師走となり、炬燵が恋しくなる季節になりました。いかがお過ごしでしょうか。

謎の男 さて、大事な話ということですが、僕らは資格持たない者が捨てた時、試練を与えるため

再び対象者の前に現れる存在です。僕らが互いの存在を認識した時、半径5メートルに亜空間の領域を展開します。そして条件を満たさない限り領域の外に出ることはできません。そう、これから君は試練を乗り越えなければなりません。 (手紙を読み終える)

和也 ……全然頭に入っていない！！

謎の男 もう一度言うよ

(アンジェラアキ「手紙」挿啓15の君へ)のオルゴール ver. が流れる。謎の男、手紙を読む)

謎の男 挿啓、「僕の君へ」。初めまして。(視線を手紙から和也に向け再度)「初めまして」(再び視線を手紙に戻す)

和也 早いもので今年も師走となり、炬燵が恋しくなる季節になりました。いかがお過ごしでしょうか。(途中で遮るように)ちよちよちよ、ちよつとまって！ちよつとまってください！

え、え……。 (謎の男と自身を交互に指をさして) ぼ、僕？僕の？

謎の男 そうだよ

和也 いや、え。いや、これって、自分のアレが存在する世界なんですよ。だったら受け入れます。

S Fとか結構好きなんで受け入れます。でもだったらせめて・・・せめて、ビジュアルだけでも寄せてくれてもよかったですじゃありませんか？！！

謎の男 僕は君だよ

和也 違います！絶対違います！いやですよ！僕の童貞が、こんな北千住にいそうなおじさんなんて！

謎の男 僕は君だよ

和也 口元だって週に3回しか歯磨きしてない感じだし！

謎の男 僕は君だよ

和也 わかりました！（深呼吸）あなたの存在は受け入れます。でも、あなたはさつき僕が捨てた童貞なんですよ

ね！だったらなんでついてきてるんですか！！さつき捨てたんですから帰ってくださいよ！

謎の男 あゝそれは無理なんだ。25歳を過ぎたら捨てられないから

和也 僕まだ23ですよ！

謎の男 あー、童貞のカウントは数え年だから

和也 ふざけんなよ！知るかよ！数え年なんて！もー何でもいいから出て行ってください

（和也、ドアを開けようとするが不思議な力でドアに触れることができない）

和也 あれ！？なんで！？触れない？

謎の男 無駄だよ。さつきも言ったけど今ここは亜空間の『童貞限界領域』に覆われているからね。

何者の干渉も許されないんだ。

和也 なんだよそれ！ふざけんなよ・・・せつかく、今日やっと捨てれたのに・・・

謎の男 ・・・・本当は・・・後悔しているんじゃないのかい

和也 そんなことないですよ！やっと捨てたんだ！

謎の男 嘘だ

和也 嘘じゃないよ！「大五郎」飲んでそうあなたに何がわかるんだよ！

謎の男 わかるさ。だって僕は君の童貞なんだから

和也 ・・・・出て行ってください

謎の男 本当にあの子でよかったのか

和也 出て行ってください

謎の男 周りの声から逃れるため、男としてのステータスを得るため

和也 出てけ！

謎の男 ・ ・ ・ ごめんよ。でも、君が受け入れていないから僕が現れた ・ ・ ・ 僕は君なんだ

（「残酷な天使のテーゼ・ピアノ版」が流れる）

和也 ・ ・ ・ そうだよ。中学生の時、女子と話すことができなかった。消しゴムを拾ってくれた女子に

「ありがとう」と言おうとしたら過呼吸になって、救急車に運ばれたんだ。それをきっかけに周りから

「童貞童貞」と馬鹿にされ続けてきた。周りの行為は次第にエスカレートして、童貞だからという理由で

保健体育の教科書を隠されたり、修学旅行の班決めでは誰も仲間に入れてくれず、結局、童貞っぽい歴史

の先生と二人で京都観光をしたんだよ。

謎の男 知っているさ

和也 ある女の子との出会いをきっかけに、次第に女の子と喋れるようになった、けど捨てられなかった

だから、僕はどうしても捨てたくて捨てたくて、捨てたい焦りだけが募って（言葉につまる）ぼくは

謎の男 とりあえず、いけそうな子にいった

和也 ・ ・ ・ そうだよ。そんな好きな子じゃなかった。本当にそんなに好きじゃなかった。ぼくは最低だ

謎の男 （「ドクン」と心臓の鼓動がなり、胸を抑える）

和也 彼女の、彩ちゃんの気持ちを利用して自分の願望を優先したんだ。僕はクズだよ！

謎の男 （「ドクン」と心臓の鼓動がなり、さらに胸を抑える）

和也 僕は、彩ちゃんに謝りたい。ごめんなさい。ごめんなさい。

謎の男 (「ドクン」と心臓の鼓動がなり胸を抑えるが我慢して、静かに拍手をする)

和也 え？

謎の男 おめでとう。合格だよ。

和也 え？

謎の男 君は試練を乗り越えたんだ。おめでとう。そんな君に伝えたいことがある。それを手紙にしてきた。

(合唱曲『旅立ちの日に』が流れる。謎の男、手紙を読む)

謎の男 卒業。廣田和也さん、あなたは小学5年生で性に目覚めてから13年間、周囲の声に屈せず、よく、これまで耐え抜いてきました。そして今日、相手を思いやる気持ちを捨てず、

己の過ちを振り返り、自らを省みることができました。相手を思いやること、これは当たり前であり、とても難しいことです。よって、ここに童貞を卒業したことを称えます！

令和5年11月11日、もう一人の僕、君の童貞より

和也 卒業

謎の男 もう一人の僕、いや和也くん、裏童貞卒業試験、合格おめでとう

和也 裏って

謎の男 公に言われている経験は、一般的なコミュニケーション力を試す表の部分、そして、相手を思いやる心得を獲得することが裏の部分。この両方に合格した者が真の童貞卒業者として認められるんだ。

和也 真の卒業

(謎の男、さらに胸の痛みがますます堪えるが)

謎の男 う(よろめく)

和也 (とっさにかけより) もう一人の僕。

謎の男 ・・・そろそろ時間のようだね(ふらつきながら起き上がり)

和也 時間ってどういふこと

謎の男 これだけは忘れないでほしい

和也 何言ってるんだよ

謎の男 君に伝えたいことがある。それを手紙に書いてきた。(手紙を取り出す)

和也 また手紙

(いい感じのBGM)

謎の男 和也くん、これだけは忘れないでください。君はまだ発展途上です。器も小さい。できるだけ自分の器を大きく育てなさい。そのための人生なのです。人生とは詰まるところ「旅」そのものです。

どこを旅し、誰と出会い、何を行い、何を感じるか、それら全てが君の人生を彩ってくれると共に、君の器を示してくれるでしょう。ですから、これからはガンガン仕事に励んでください。そして、それと同じくらい遊んで人生を楽しみなさい。社会人になってから2年間、身の丈以上の収入に慢心することなく、良く誠実にここまでできました。私はそんなあなたを誇りに思います。僕から言えることはここまでです。しかし、くれぐれも体を気遣うように。

(謎の男、舞台花道の方へ向かい、立ち止まる)

和也 ・・・もう一人の僕

謎の男 大丈夫

和也 ・・・もう一度、会えるかな(消えかかる謎の男に手を伸ばす)

謎の男 あえるさ・・・きつと（和也に手を差し伸べる）

和也 約束だよ！

（同時にケツメイシの「さくら（最後のサビ）」が流れる。謎の男花道へ退場）

和也 （ロパクで）どうてーい！（と叫ぶ）

（背景、プロジェクターで曲に乗せて、赤ちゃんの頃から大人に至るまでの写真が流れる。15秒ぐらい）

（スライド終了と同時に、冒頭の不思議な声で「忘れないで」と聞こえる）

母 （暫くしてドアの向こうから）かず

（和也、涙をぬぐう）

母 （ドアをコンコンと叩き）入るよ・・・まったく、連絡もしないで急に帰ってきて

和也 ごめん

母 （嬉しそうにため息をつき）今日は泊ってくの？

和也 いや、帰るよ

母 そうかい

和也 でも、腹減ったかも

母 （ため息）焼うどんがいいかい

和也 うん。母さんの焼うどん久しぶりだな

母 ・・・・したらちやっちやと風呂はいりなさい

和也 あの、母さん、いや、オフクロ・・・ありがとう

母 まったく（母、退場）（部屋に一人たたずむ和也）

(ちょうど「さくら」が終わるタイミングで)
和也 あ、雪

以上